

第千三百五十八号
朝野新聞

一口小猫との云て侮りたまふあ
泥中にも蓮花ありといふ小舟町ま
住む車夫の娘で去年迄一町ま
藝妓と居何某の顔も相応で
心も善く遂成田辺の豪富が泥
水と洗く連を行に此頃病氣つき兼
用も効るに故保養のふれ且母の安
否と尋ね芝居や梅見ゆも往けと
十分小當とられて出京さるる
先母の許へ立ちお母親の亭主乃
大酒の困り果離縁を賞ふと談
判最中あると種々小言めを言ま
睦敷に之更も互ひに勘弁して落
て下さぬの替り私に芝居のえす
ともまげのお金の両人上まはと
涙ながら異見お母親もちち入父の
呑ぬを先生も閑口して双方とも
丸く納まつことい實お慰むること
だと長家中で評判にて居まると



明治十一年 御届
三月十八日
坂元町三丁目九番地
西工 山崎徳三郎
南博馬町三丁目二番地
出板人 林吉藏

